



● カンボジア工場設立を経て

株式会社 丸三金属

代表取締役 成瀬 一晴

あけましておめでとうございます。「なぜカンボジア？」とよく聞かれます。

バブル崩壊後の中国が海外進出の第1歩でした。当時仕事が激減し、中国へ販売の活路を見出そうと1995年天津工場、2000年上海工場を設立していきました。

しかし、2004年、上海工場の経営者（上海人）がコピー工場を作り裁判となり、2006年、天津工場の協力もあり無事上海は撤収できました。この時、世間ではまだ中国進出ラッシュでありましたが、当社はJETROチャイナプラスワンのベトナム視察ミッションに参加し、試験的にベトナムにレンタル工場を稼働させました。

そして、2011年3月11日。「東海地区にも来るかもしれない」。これがきっかけで「バックアップ工場」を本格的に検討し始めました。検討に当たり上海の経験も踏まえ3つのリスクに重点を置きました。(1) ナショナルリスク (2) 人的リスク (3) 金融リスクです。

(1) ナショナルリスクには、親日反日・治安・邦人の生活を、最重点に考えました。

(2) 人的リスクは、コピー・乗っ取り・横領は、どうしても避けたいと考えました。

(3) 金融リスクは、投資したお金が出し入れ出来るか、現地通貨安による為替差損の影響はあるか、等です。

当然、最優先にベトナムを考えました。労働力は中国と遜色が無く、親日でもあり、日系レストランも多く存在していたので、出向者にも暮らしやすいのではと思いました。

ただ、ちょうどその時期、ベトナムが共産党政権且つ通貨安にて、通貨交換引き締め政策を行っており、当社の試験工場も着金送金に苦労していたの

で、進出に二の足を踏みました。

次に、テクノ会主催にてシンガポール経由インドネシアおよびカンボジアおよびミャンマーを視察してきました。

インドネシアは円高の影響と自動車大手が既に進出しているということもあり、土地購入に2年かかると言われ、また、ミャンマーは電気通信を含めたインフラがこれからということ、候補から除外しました。

残るはカンボジア。親日で治安も良く、日系レストランやこの頃ではイオンもオープンし、会社スタッフが駐在するには良い環境かと思いました。

また、人も温厚な仏教徒に親近感を覚えました。金融面では流通貨幣がUSドルと言うことで、入金出金、日本への送金も現時点は許可なく簡単に出来るところが非常にメリットに感じられました。タイの洪水もあり開発区は、いざという時の復帰も早い日系のプロンベンSEZに決めました。

とは言っても、良いことばかりではありません。役人の汚職は中国ほどでは無いのですが、小金をせびってきます。ポルポト独裁政権が倒れてまだ数十年、教育が十分行き届かなく、労働生産力はベトナムの70%程度と考えてよいでしょう。電気代もベトナムの2倍強とほぼ日本と同じ、物流費用も決して安くありません。

昨今は、「円安で大丈夫ですか」ともよく聞かれますが、愛知県地区の人手不足を補うべく当初のお題目通り当社の生産をバックアップしてくれています。

今後、カンボジア工場ワーカーの日本研修や更なる生産移管を実施し、2016年11月の3周年を迎えたいと思っています。

